

CASBEE-建築(新築)2014年版
 (仮称)福岡市中央区地行浜2丁目マンション計画 駐車場棟

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境			0.30					2.4
1 音環境		2.0	0.38	-	-			2.0
1.1 騒音		2.0	1.00	-	-			
1.2 遮音		-	-	-	-			
1 開口部遮音性能		-	-	-	-			
2 界壁遮音性能		-	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		-	-	-	-			
2 温熱環境		-	-	-	-			
2.1 室温制御		-	-	-	-			
1 室温		-	-	-	-			
2 外皮性能		-	-	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-			
2.3 空調方式		-	-	3.0	-			
3 光・視環境		2.7	0.63	-	-			2.7
3.1 昼光利用		3.0	0.43	-	-			
1 昼光率		3.0	1.00	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-			
1 昼光制御		-	-	-	-			
3.3 照度		2.0	0.21	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.36	-	-			
4 空気質環境		-	-	-	-			
4.1 発生源対策		-	-	-	-			
1 化学汚染物質		-	-	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		-	-	-	-			
1 換気量		-	-	-	-			
2 自然換気性能		-	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.1
1 機能性		3.2	0.40	-	-			3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.57	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-			
1 広さ感・景観		-	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		-	-	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.43	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内外の仕上げにおいて、防錆性・防汚性の高い材料を使用	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.30	-	-			3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.22	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	壁は構造躯体+塗装仕上げにより内装仕上げ材を用いていない	5.0	0.11	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:PE・HIVP、雑排水管:VP、消火管:SGP	5.0	0.22	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	電灯盤:25年、照明器具:20年、直結増圧給水ポンプ:20年	4.0	0.22	-	-			

2.4 信頼性	1 空調・換気設備		3.5	0.20	-	-	-
	2 給排水・衛生設備		-	-	-	-	-
	3 電気設備		3.0	0.50	-	-	-
	4 機械・配管支持方法	耐震クラス:A	4.0	0.50	-	-	-
	5 通信・情報設備		-	-	-	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり		1.0	0.30	-	-	-
	2 空間の形状・自由さ		1.0	1.00	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		4.5	0.40	-	-	-
	2 給排水管の更新性	仕上材なしゆえ、給水管、雑排水管、消火管に関し隠蔽設備なし	5.0	0.25	-	-	-
	3 電気配線の更新性	仕上材なしゆえ隠蔽機器なし、また、配線も隠蔽なし、もしくは配管保	5.0	0.13	-	-	-
	4 通信配線の更新性	仕上材なしゆえ隠蔽機器なし、また、配線も隠蔽なし、もしくは配管保	5.0	0.13	-	-	-
	5 設備機器の更新性	車路経由もしくは外壁開口部より搬出入可能	5.0	0.25	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.25	-	-	-
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	-	-	-	-
集合住宅以外の評価(3a.3b)			-	-	-	-	-
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	1.00	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.14	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.29	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.29	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			壁は構造躯体+塗装仕上げにより内装仕上げ材を用いていない	5.0	0.29	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	-	-	-	-
3 冷媒			-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.3	0.50	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告照明なし、駐車場照明の光害対策がドライブインの過半を満たす	5.0	0.70	-	-
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			駐車場の自然換気・自然排煙を成立させるため、ほぼ全域において外壁なし	4.0	0.30	-	-